

〔巻頭言〕

今こそ基本に立ち返る時では

JA全農家畜衛生研究所 大 角 貴 幸

今年の夏は例年以上に暑い夏となり7月～8月にかけて、場所によっては日中の最高気温が40℃を超えるという猛暑という表現がピッタリの夏でした。あまりの暑さに肉豚の飼料摂取量が落ち、肉豚出荷頭数も減少傾向という話も聞こえてきました。9月に入りやっと朝晩涼しくなってきましたので肉豚出荷頭数は持ち直してくると思いますが、繁殖豚への夏場の影響はこれからわかってきます。我々 SPF 農場関係者も注視していきたい点だと思います。さらに、7月には西日本を中心とした豪雨による被害、7、8月を通じて台風による被害も大きく報じられました。豪雨被害、台風被害にあわれました SPF 農場関係者におかれましては1日も早い復旧を祈念しております。

気象条件も昔に比べればかなり変化しています。雨がふればスコールのように、台風が来ればハリケーン並みの強さで日本列島へ上陸します。また、日本列島を通過する台風のコースも典型的なパターンといわれたものだけではなく、他のパターンも発生する等気象条件の様々な変化と日々向き合うことが必要となっています。

しかしながら、そのような日々においても、SPF 農場では肉豚生産を継続しています。

高い衛生水準にあって養豚経営上大きな障害となる疾病群の存在を排除し、高い生産性を実現する「SPF 理念」の下に豚を飼っている農場群に

おいてもこれら気象条件の影響ははかりしれません。

これからの SPF 農場での生産性を考える際、種豚の育種改良はもちろんのこと、気象条件の変動を極力低減できる環境での飼育や、そういった気象条件に負けない、うまくつきあっていく管理方法の研究・実践が今以上に必要となってくるのではないのでしょうか。

しかしながら、特別な対応は必要ないかもしれませんが。昔から言われている「基本に忠実」が最短の解決策を導くような気もしています。

海外の疾病情報に目を向ければ8月に隣国の中国においてアフリカ豚コレラの発生が報告されています(8月31日現在5例目)。急激なスピードでの発生件数増加の報に触れるたび、隣国だけの話ではなく、日本国内においてもアフリカ豚コレラが侵入しない取り組みへの強化が必要であることを痛感します。

SPF 農場を運営する皆様におかれましては、従来より日本 SPF 豚協会の認定基準にもとづき防疫管理に十分注意をはらっていますが、いつ何時国内で発生するかもしれないという心構えで自分の農場防疫管理に課題がないか再点検をしてください。一度決めたルールを守ることは大事ですが、定期的に問題がないかチェックし、改善することが一番大事です。